

北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」  
令和6年度（2024年度）授業研究セミナー

## 道央・国語 実施報告



令和6年12月6日（金）、北海道滝川高等学校を会場に「国語科における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）」をテーマとして、道央ブロック・国語の授業研究セミナーを開催しました。オンラインを併せて、計37名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用ください。

### 実施状況

#### 【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭4名（授業者及び協力員）、道教委指導主事及び東京学芸大学「高校探究プロジェクト」スタッフから成る「授業研究チーム」を編制し、オンラインで「単元の指導と評価の計画」の検討会を3回（9/5、10/7、11/6）実施しました。検討会では、単元の目標の設定から始まり、それを実現するための言語活動や教材の選定、ICT 端末の効果的な活用の仕方等に至るまで、次のことを常に意識しながら協議しました。

#### 【検討会におけるポイントとなる考え方】

- 1 生徒が、言葉による見方・考え方を働かせ、国語の授業で育成を目指す言葉の力が身に付く授業になっているか
- 2 科目「言語文化」の目標を達成するための授業になっているか
- 3 目標を達成したかを評価するために、「評価B」の生徒の姿を具体化できているか
- 4 言語活動や教材、ワークシート等は目標を実現するために適したものになっているか

#### 【研究授業】北海道滝川高等学校 藤宮 隆明 教諭

「言語文化」における「読むこと」の領域の単元「複数の作品を読み比べ、古典文学作品が『どのように』書かれているか考えよう」について、研究授業を行いました（第1学年）。本単元のねらいとしては、生徒が古典文学作品において筆者が伝えたいことを理解した上で、それを効果的に伝えるために、文章の構成や展開、表現の仕方にどのような工夫がなされているのかを評価することにあります。具体的には、「九月二十日のころ」



における「その人」の「ものあはれ」な振る舞いに着目し、作者が「その人」の様子をのぞき見るという行為を文章の構成に位置付けたことで、「もののあはれ」が効果的に表現されていることに生徒自身が気付くということです。本時では、まず個人で「筒井筒」（『伊勢物語』第23段）と「月やあらぬ」（『伊勢物語』第4段）との比較を手がかりに本文の構成や展開などの工夫について考え、次に5人1組のグループになり検討した結果を Google スライドにまとめるといった学習活動を行いました。まとめたものは全体で共有し、それをもとに単元のまとめとして個人で批評文を書くことで目標の実現を図りました。

## 【研究協議】「国語科における探究的な学び

### （主体的・対話的で深い学びの充実）」

研究協議では、研究授業をもとに、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の堀内貴臣氏により、「国語科における探究的な学びを“探究”する」というテーマで協議を行いました。現行の学習指導要領において求められている「探究的な学び」に焦点を当て、最初に「探究的な学び」とは何かについて整理した上で、参加者それぞれが国語科における「探究的な学び」に係る実践を振り返りながら協議しました。



研究協議を通して、「探究的な学び」は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、資質・能力を育成するという国語科の目標を実現するためにあるということ、つまり国語科における「探究的な学び」は、「探究」する力を身に付けさせるための学びとして捉えるのではなく、国語科の目標に向かう学びとして捉えることが大切である、といったことなどを共有しました。

## セミナー参加者の声

### 【参加者の声（一部）】

- 生徒が端末を活用し、積極的に話し合いながら自身の考えを深めている姿を見て、今後の授業の在り方について認識を新たにした。
- 複数の文章の比べ読みやグループでの話し合いなど、文章の構成や展開における特徴について生徒自身に気付かせるための仕掛けを、いくつも用意していたことが大変参考になった。
- 個人で試行錯誤した上でグループワークに取り組み、自分とは異なる考えとすり合わせて自分の考えを修正したり、他者の意見から新たな気付きを得たりしていた生徒の姿が印象的だった。
- Googleスプレッドシートの共同編集を活用することで、生徒は他者の考えをリアルタイムに見ながら自分の考えを深めていくことができおり、効果的なツールの使い方だと思った。
- 生徒が主体的に学習に取り組むようになるためには、授業者が単元の目標を実現するための課題を焦点化し、かつ生徒に具体的に示すことが重要であることに気付いた。
- 2回に分けた個人思考の場面や協働的に学ぶことで見方を広げる場面を設定するなど、生徒が思考を深め、自己の学びの変容に気付きやすくなるための手立てが講じられていた。

### 【アンケートの結果（一部）】

- 1 今回の研究授業・研究協議において、教科等における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
  - ・おおいに深まった 42.3%
  - ・深まった 53.8%
- 2 今回のセミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。
  - ・大いに役立つ 42.3%
  - ・役立つ 53.8%

《授業資料リンク》

【単元の指導と評価の計画】

【学習指導案】

【ワークシート】

